

論文投稿とは (研究会誌に限定せず一般的に)

井上和男

(帝京大学ちば総合医療センター地域医療学)

E mail: inouek@med.teikyo-u.ac.jp

論文とは

- 自分たちが発見した
- 「他の人々」にも伝える「科学的」価値がある(と思う)事柄を
- 「他の人々」にもその価値がわかるように作成した文章
 - Whatever you want to tell your audience!
 - 他の人々=読者、Editor、Reviewer、同僚(peer)
 - 科学の道標に自分も参加する

原著(Originals)とは

- 科学の道標を一步でも(たとえ半歩でも)前に進める新知見
- さらに重要なこと
- 見出した研究者によって、他の人々がそうだと「理解できる」根拠
- 例: クォークもDNAも、「見出される」前からあった

ありがちなミス①

- とにかく何でもと言って詰め込む
 - ちんどん屋でもあるまいに....
 - 今で言うならドンキホーテ?
- 「あなたのしたこと、人に伝えるべき価値のある大切なことだけを書く」
 - それはごく一部分のはず
 - その価値の大きさが論文種類が決まる

ありがちなミス②

- 自分オリジナル症候群
 - 「自分」が集めた・書いたから?
 - そりゃ「世界に一つだけの花」だけど
- データを集めてまとめた
 - それは単なる「データ集計」

「投稿」論文が
「投降」論文にならないように

ケアレスミスは死を招く (例)

- 数の不一致
- 用語の不一致
- 本文と図表の不一致
- タイプミス
- 等々
- これらのミスは、積み重なると心証いと悪し
- 著者多いと特にそう

雑誌に掲載するために

- EditorやReviewerを喜ばせて! (お願い)
- それは
 - 独創性
 - 正確性
 - 有用性
 - 読み易さ、色々あるが要は、、、
- 「読んでいて楽しい論文!」
- Former BMJ Chief Editorも同意見

アドバイス①: 基本

- 投稿規程 (Info for authors)をきちんと読みましょう
- 雑誌のScopeに論文が合っているか
- 論文の種類選択は適切か

アドバイス②: 正確&簡潔

- 論文の種類を決めたら
 - 文字数や図表、引用文献の制限を守る
- 引用文献
 - 他の論文からの「孫引き」はしない
 - タイトル、雑誌名、号、頁など正確に
- 図表
 - できるだけ少なく (同じ事を云うなら)
 - 独立して理解できること (略語や補足)

盗作は×・お手本は○

- Originalityは論文の中身にある
 - 見てくれや造作はいい論文をどんどん参考にしよう
- だが1論文だどどうしても過度のまねになりやすい
- そこで!!!
- 書見台2つと、コルクボードを用意せよ!



投稿が近くなったら

- 著者以外の複数人に見てもらう
 - その人が理解しなかったら,,,,
 - 多分EditorやReviewerもわからない
- Runner HighならぬWriter High
 - 「いい研究・論文」と確信するのはOK
 - しかし、最終的には読者に読んでもらって (=雑誌に掲載) されないと.....
 - 2、3日寝かせて読んでみる
 - 「深夜に書いたラブレター」翌日赤面

Native Editing

- 英文雑誌では絶対に必要
 - Nativeでも研究者でなければ×
 - 大抵は Native Editing Serviceに出す
- どこに頼むか
 - 日本の業者はバカ高い
 - 頑張って、海外に出す (クレジットカード片手に) お勧め: Editavenue.com
- 初心者へのアドバイス
 - 初稿時と、提出時の2回

投稿後雑誌側では①

- Chief Editorがチェック
- Reviewerに回すかどうか決定
 - フォーマットや文章の問題→門前払い
 - ScopeやOriginalityに問題→Reject
 - 2週-1か月前後でRejectかReviewに回ったか判明することが多い
- Chief Editorは大変
 - 責任大&外部からのPressure

投稿後雑誌側では②

- 査読者に依頼
 - 編集委員あるいは外部査読も
- 査読意見ができたなら
- 担当Editorが指示票を作成
- (多くの場合) 査読に従ってリバイスを要請
- 再投稿→再査読のプロセス
 - 受理まで繰り返す

査読への態度

- 基本的には査読者に従うこと
 - 査読が正しくないことも無論ありうるが、その際は明確に理由を書くこと
- コメントの一つ一つに応えること
- 修正した箇所を明記すること
- 上記内容 (Response to reviewers) をカバーレターと一緒に添付すること
- 査読者への礼儀を忘れないこと!
 - 分野のエキスパートでボランティア

なぜ正確な記述が必要か

- 読み手に、研究者 (著者) がしたことを正確にフォローさせることが必要→それで初めて評価可能
- 再現性が必須→当たり前
- 論文: 次の進歩を促す「知識の輪」& 「研究者の体験の共有」
- みんなにわかるように明瞭に書こう

Editorブルース(港町ブルース)

Editorしている 研究会誌
 今日も原稿が 届くのさ
 あなたにあげた コメント読んで
 どこがどこがだめだか わかるでしょう

今日もくるのさ 再投稿
 さっさと査読に 回すのさ
 それ待つ間 じれるのわかる
 だけどだけど新研究 してましよう

へき地・離島救急医療研究会誌 投稿規定と査読Q&Aから

論文種別

- ▶ 投稿論文は、原著論文、総説、調査報告、事例報告、資料、話題とする。
- ▶ **原著論文**：新たな知見を提供する論文であり、単なる調査・事例報告ではなく評価・検討を行い、新知見または創意が含まれている研究論文である。
- ▶ 総説：ひとつのテーマに関連する多くの研究論文総括・評価・解説であり、読者に当該テーマにおける経緯を踏まえた最新の知見を提供するものである。
- ▶ 調査報告：へき地・離島医療に関する実態調査等の報告でデータ自体が利用価値を有している論文。
- ▶ 事例報告：へき地・離島医療に資する症例や事例等の報告。
- ▶ その他 資料・話題

査読について

- ▶ 11巻(2010発行予定)以降の研究会誌については、査読制度(ピア・レビュー)を導入することとなった。
- ▶ 研究会誌に掲載される論文は査読を経て、編集委員会(規定については別に定める)が採否を決定する。最終的に、論文をどの投稿区分で掲載するかについては、編集委員会が決定するものとする。
- ▶ 編集委員会は、査読者の意見を受けて、論文の内容について検討を行い、研究会誌への掲載にあたって修正すべき点があれば、著者に提示して論文の修正を求めることとする。
- ▶ 著者は、修正すべき点として提示された点について推敲したのち、編集委員会が指定した期限までに、再提出するものとする。

残念ながら原著に相当する論文はなかった

- ▶ 編集委員会としては原著にトライすることを推奨したい
- ▶ バリヤーを超えるためには
 - ▶ なぜ「その」知見が新しくかつ普遍性を持つものか説得力が必要
 - ▶ Introductionで十分な先行研究の消化とその上に立った研究仮説・疑問の提示
 - ▶ 引用文献が明らかに少ない→委員長として提案あり*
 - ▶ 仮説・疑問に対して適切な研究方法
 - ▶ 結果の明快な提示とそれを基にしたDiscussion

委員長からの提案：引用文献

- ▶ 引用文献が2-3では、原著はおろか他の論文にもなりにくい。
- ▶ 著者のつもりで引用文献を検索してみた
- ▶ が、少ない
- ▶ 一番適切なのはやはり本研究会誌のバックナンバー
- ▶ 「医中誌」で無料でアブストラクトが見られる
- ▶ 「メディカルオンライン」ではアブストラクト80円、全文600円弱(記憶ですが)
- ▶ **ぜひ、引用してください**

今回の査読プロセスQ and A①

- ▶ Question
 - ▶ 原著以外でもIMRAD形式で書かないといけないのか？
- ▶ Answer
 - ▶ Reviewでもそのような傾向にあります
 - ▶ 読者を考えればわかりやすい構成が必要
 - ▶ 調査報告、事例研究でも、どうしてこれを書くのか→Introduction、どうやって調べたか→Methods、その結果はどうか→Results、でどう考えたらいいいのか→Discussionとなります
 - ▶ IMRADに絶対にこだわるものでもありませんが、統一のとれない論文形式は雑誌として読みにくくなります

今回の査読プロセスQ and A②

- ▶ Question
- ▶ 前回の査読原稿と査読記入結果が欲しい

- ▶ Answer
- ▶ お手数ですが、各回の論文原稿とご自分の査読結果は（コピーかファイルで）保存お願いいたします
- ▶ 事務局も編集委員長も手弁当的にやっております、ご理解ください

今回の査読プロセスQ and A③

- ▶ Question
- ▶ 前回の査読では見つからなかった要修正点を発見した
- ▶ Answer
- ▶ 「初回に指摘したこと以外は、次回以降の査読では要求しない」というのがルールです。それは、査読プロセスを逆戻りさせないためと、関係者の精神的消耗を防ぐためです。
- ▶ もし、再査読以降に重要な要修正点が見つかった場合は、①雑誌側として訂正をお願いする、②変更不能であればその点は削除する、となると思います。

〒113-8654 東京都文京区湯島1-3-1 帝京大学
 救急医療研究会誌 編集委員長 井上和男